

み みんなでまちをきれいに ごみゼロを目指した取組を実施

市は、5月28日から6月3日までを「ひたち・ごみゼロウィーク」とし、5月28日に、日立市コミュニティ推進協議会との共催により「スポGOMI大会 in 常陸多賀」を開催しました。競技は、3人1組のチームが決められたエリア内でごみを拾い、そのポイントを競うもので、参加した41チーム123人は、ごみが捨てられやすい場所を予測しながら、熱心にごみを拾いました。また、5月30日には、市内4つのJRの駅前で、駅を利用する高校生や関係団体のメンバーなどおよそ150人による街頭キャンペーンを行い、「ひたちごみゼロウィーク」「ポイ捨て禁止」などと書かれた啓発グッズを配りながら、協力を呼びかけました。なお、日立駅では、環境月間にちなんで、6月30日までグリーンライトアップを実施しています。



住 みよいまちづくりを目指して コミュニティ推進協議会総会を開催

5月20日、市内23のコミュニティの会長で構成される日立市コミュニティ推進協議会の総会が開かれ、今年度の事業計画案や予算案などについて審議されました。今後10年間の活動の指針である「日立市コミュニティ活動推進行動計画」の初年度である今年度は、新たな人材の発掘や広報活動の強化などを進めるとともに、脱炭素社会に向けた環境活動などに取り組んでいきます。



困 りごとがあれば相談を 民生委員児童委員協議会が啓発活動

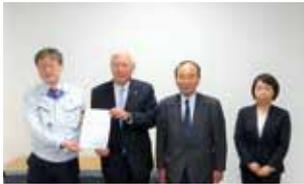
民生委員・児童委員は、地域の身近な相談相手として、日々、活動しています。日立市連合民生委員児童委員協議会は、5月12日、市内14か所でチラシやウェットティッシュを配布し、活動を広く知ってもらうための啓発活動を行いました。会長の宇佐美吉郎さんは「生活上で困ったことがあれば、すぐに関係機関につなぐお手伝いをします」と話し、若い世代の方にも気軽に相談してほしいと呼びかけていました。

若者に選ばれるまちを目指して 市などが企業に地元高校生の採用を要望

市は、日立商工会議所や日立公共職業安定所とともに、5月12日に市内の企業4社を訪れ、高校生の採用などを求める要望書を提出しました。小川市長は「地域経済の活性化やまちの賑わい創出のためにも、引き続き、地元高校生の採用などについて検討をお願いします」と想いを伝え、それを受けた各企業の代表者は「前向きに検討したい。企業としても、日立市が再び活気あるまちとなることを希望している」とコメントしました。



株式会社日立製作所



J X 金属株式会社



三菱重工業株式会社



住友電気工業株式会社

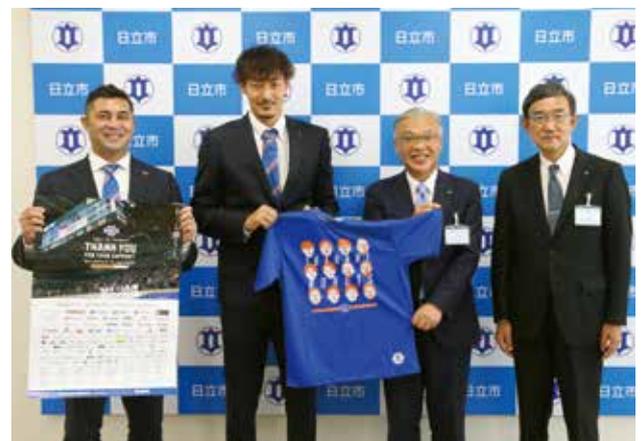


環 境都市・日立の実現に向けて 第1回日立市環境審議会を開催

市は、市の環境に関して、未来に向けた道しるべとなる第4次日立市環境基本計画の策定に向け、5月17日に第1回日立市環境審議会を開催しました。審議会は事業者や市民など19人で構成され、今後、「ゼロカーボンの推進」や国の「気候変動適応計画の反映」、「SDGsの理念の反映」といった環境に関わる社会の動きを踏まえ、新たな視点で議論を重ねていきます。

チーム設立後初の快挙 日立南リトルリーグが全国大会に出場

市の南部を拠点に活動する日立南リトルリーグは、「全日本リトルリーグ野球選手権大会」への出場をかけた予選大会で見事準優勝を収め、1978年のチーム設立以来、初の全国大会出場の切符を勝ち取りました。5月14日と15日に全国大会が行われ、惜しくも予選リーグ敗退となりましたが、新たな歴史を切り拓いた子どもたちの今後の一層の活躍が期待されます。



来 シーズンもさくらアリーナで 茨城ロボッツがB1リーグでの戦いを報告

プロバスケットボールチーム「茨城ロボッツ」がB1リーグのシーズンを終え、5月20日、茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメントの西村大介代表取締役社長と遥天翼選手が、市に報告を行いました。昨年、日本で最もレベルが高いB1リーグに昇格した茨城ロボッツは、今シーズン、東地区で10位の成績を収めました。遥選手は「来シーズンもさくらアリーナで試合がある。ぜひ応援に来てください」と市民にメッセージを送りました。